

第三回 千曲市地域防災拠点・道の駅推進協議会 議事録

日 時：令和7年11月11日（火）午後2時00分～

場 所：千曲市役所 302 会議室

出席者：下寄委員（会長）、徳原委員（副会長）、馬場委員（福上委員の後任）、上水委員、高橋委員、宮本委員、西野委員（計7名）

欠席者：タイラー委員、安藤委員、大谷委員、小沼委員、関委員、小笠原委員

事務局：公民共創推進室、危機管理防災課、株式会社長大（基本計画委託事業者）

配布資料：次第、グループワーキングのまとめ、基本計画（案）の検討状況報告

1. 開会

福上委員から馬場委員への交代報告、新任の挨拶

2. 下寄会長より挨拶

3. 会議事項

- ・ 7月30日実施グループワーキングのまとめ報告
- ・ 基本計画（案）の検討状況報告

議事

説明① グループワーキングのまとめについて

7月30日に開催したグループワーキングの意見を取りまとめた報告（株式会社長大より）
主な意見は以下のとおり。

(1) コンセプト・テーマに関する意見

地域特性を生かしたテーマ設定の必要性。「1日中過ごせる」「面的に広がる」道の駅への期待。

(2) 食・物販に関する意見

地域産品を活用した商品開発（例：棚田米のおにぎり）。地元企業・有名店による飲食機能の導入。農業振興の発信拠点としての役割。市内で買いにくい花類や広域特産品の販売ニーズ。

(3) 防災機能に関する意見

備蓄倉庫、炊き出し機能は「必須」との強い意見。日常的に体験できる防災機能（放水体験など）の提案。ヘリポートの必要性にも意見あり。

(4) 子ども遊び場に関する意見

屋内遊具等、天候に左右されない遊び場の要望が多数。地域材（間伐材等）を活用した遊具提案。親の休憩スペースの必要性。一部「有料化も検討可能」との意見。

(5) オリジナリティ・連携に関する意見

サイクルステーション、RV パーク、足湯など独自性の付与。企業と連携したイベント、周辺施設（棚田等）とのツアー連携。アクセス強化（国道・市道両面利用、タクシー待機場）

(6) その他

歴史的魅力の発信、他道の駅との差別化の必要性、駐車場規模や全体面積に関する意見。など多くの意見が出ました。

説明② 基本計画（案）の検討状況報告について

基本計画（案）の検討状況報告（公民共創推進室より）

(1) 協議会の位置づけ・今後スケジュール

本協議会（第3回）で意見を受け、第4回までに可能な限り反映。第4回でパブリックコメント前の計画案を提示。パブコメは1月～2月頃を予定。

(2) 基本計画（案）の構成

1. 道の駅整備の必要性
2. 道の駅の整備コンセプト

3. 前提条件の整理
 4. 導入機能及び施設規模の検討
 5. 施設配置の検討
 6. 概算事業費の算出
 7. 事業スキームの検討
 8. スケジュールの検討
 9. 今後の検討課題
- (3) 基本構想と基本計画の位置づけ
構想：方向性を示す。 計画：具体的な機能配置・整備内容を定める。
- (4) 基本理念（案）
「地域の防災力を高めつつ、日常と観光が共存する持続可能な地域拠点を目指す」
- (5) 理念に基づく 5 つの観点
1. 地域防災力の強化と災害時の拠点機能の確保
 2. 地元農産物・特産品の価値を高める“地産地消”の仕組みづくり
 3. 観光客・住民双方に響く「また来たくなる」魅力の発信
 4. 立地優位性を生かした広域交流・関係人口の創出
 5. 子育て世代を含む地域住民の“日常の居場所”としての利便性と安心
- (6) コンセプト（案）
「地域の日常と非日常が重なる、にぎわいと安心が持続可能な“多機能交流拠点”」
～千曲の自然・文化・人がつながり、“また来たくなる”場所に～
- (7) 調査結果
交通量調査：道の駅「上田 道と川の駅おとぎの里」より 3 割程度少ないが、商圈人口は近隣道の駅と遜色なし。
類似施設の把握（直売所・遊び場・飲食・スーパーなど）
- (8) 導入機能の検討（写真を用いて紹介）
情報発信機能、ユニバーサルトイレ、24 時間休憩スペース、駐車場、ベビーコーナー、直売所、飲食機能、イベント広場、芝生広場（災害時の物資拠点、ヘリポート想定）、屋内遊具広場（天候気温に左右されない）、防災機能（避難・物資集配拠点）。

施設配置案の比較検討（3 案）

【案 1：市道アクセス型①（駐車場：西側）】

- ・屋内遊び場を見えやすい位置に配置。複数広場で用途分離。出入口が交差点に近く、渋滞対策が必要。通学路と車動線が重なり安全対策は必須。広場から棚田景観が良く見える。駐車場と芝生広場の間に建物を置き飛び出し対策。小学校側に芝生広場→放課後利用も想定。拡張エリアは駐車場西側。

【案 2：市道アクセス型②（駐車場：東側）】

- ・イベント・芝生広場の一体的利用が可能。通学路と車動線が重なり安全対策は必須。建物の視認性が向上。駐車場と広場の間に建物が無く安全性への工夫が必要。災害時、小学校との連携に有利。騒音懸念あり。拡張エリアは駐車場東側。

【案 3：国道アクセス型】

- ・国道から直接アクセスでき来訪者利便性が高い。

質疑応答

（委員 1）

① 商圈人口・広域エリアの捉え方

委員意見：「商圈人口」の範囲が狭く見える。塩崎バイパス・篠ノ井方面も 20 分圏内に入るのでは。

事務局：足元 10 分圏と 20 分圏を別で囲っており塩崎周辺も含まれる想定。

上田の「道と川の駅」と同程度の商圈と考えている。

補足意見：地図の色分けが分かりづらいため、修正を検討。

②道路アクセス・信号渋滞・交通対策

委員意見：バイパスの信号が連続し、渋滞要因になり得る。小学校前の道路整備・渋滞緩和策が必要。

事務局：信号改良は要望するが、現実的には難しい。交差点改良などで対応を検討。

(委員 2)

①情報発信

委員意見：姨捨 SA のように歴史文化を発信できる展示スペースを確保してほしい。新しい道の駅で発信を。「姨捨の棚田」などを下から見渡せる立地を生かしてほしい。

事務局：景観についてはパブリックコメント等と同様に検討対象。情報発信コーナーは整備予定。

②女性用トイレの混雑対策

委員意見：女性用トイレが混むので出入口を一方通行にするなど混雑対策考えてほしい。

事務局：女性用トイレの混雑対策も設計時に考慮していく。

(委員 3)

①国道からのアクセスについて

委員意見：災害時は大型の特殊車両が施設に入ることがあるが、国道から入口の拡幅はあるのか。

事務局：国道からのアクセスについても検討済み。大型車両の経路とアクセスできる広場、駐車場は必要と捉えている。

②棚田の景観について

委員意見：景観に配慮しガラス張り等にする予定はあるのか

事務局：平屋、2 階建てという点も詰まっていない。周辺の工場等の関係上考えると全貌を見渡すことが難しい部分はあると思う。

(委員 4)

①防災拠点機能と道路アクセス一体化

委員意見：配置案に防災拠点の明示がないがどう位置づけるのか。市道アクセス型①案と国道アクセス型はほぼ同じ。一本化できないか。

事務局：備蓄倉庫・広場など防災機能は確保済。図面上では省略されている。

大型車両の進入経路も検討済み。市道アクセス型①と国道アクセス型は将来的に統合の可能性あり。

(委員 5)

①サイクリングロードの整備

委員意見：棚田方面へのサイクリングロード整備は検討していないのか。

事務局：サイクリングロード整備は基本計画の対象外。

②周辺道路

委員意見：9140 号線（候補地南側市道）の拡幅でアクセス向上を。

事務局：9140 号線は現計画地に直接接続しておらず、現時点では検討外。

(委員 6)

①渋滞対策

委員意見：バイパスからのアクセスだけでなく、複数ルート確保を。災害時通行不能の恐れあり。駐車場出入口が 1 か所だと混雑・滞留が懸念される。複数出入口を希望。

事務局：アクセスルートは複数化の方向で再検討。

②屋内外広場・駐車場の配置

委員意見：子連れ利用の安全面から屋内・屋外遊び場は隣接配置が望ましい。小学校前に駐車場がある市道アクセス型②案は騒音・排気ガスの懸念。

事務局：小学校前の駐車場配置・環境影響にも配慮する。遊び場の隣接案も含め再検討。

(委員 7)

①地元合意・通学路の安全

委員意見：通学路である 9130 号線（候補地北側市道）からの出入りには地元が「絶対反対」。通学路分断の恐れがあるため地元区長も「住宅密集地を通すのは反対」。地域の避難拠点としても機能するため、住民避難と車両進入が交錯しない設計が必要。

事務局：9130 号線からのアクセスについては地元とも話しながらかよく確認していかねばならないが、国道からの出入りに高低差があり傾斜を取って車路を延ばさなくては行けないので、事業費と収益性の面からも要検討としている。

②月の都を活用したブランディング

委員意見：誰もが訪れたくなるような奇抜なアイデアを取り入れた計画に。

事務局：奇抜にすれば費用がかかってしまう。また、計画だけぶち上げてとん挫した事例も多くある。将来交通量も鑑みて当初は現実的に進め、盛り上がった時に奇抜な検討を行うことも可能。

③駐車場の確保

委員意見：周辺スーパーには約 1ha 駐車場が 280 台あるがいつも混んでいる。配置案の中でも 1ha くらいに見えるので混雑対策として駐車場の台数確保も検討してほしい。

4. その他 なし

5. 閉会 次回協議会にて基本計画（案）の最終版の共有を行う旨を報告し閉会。